

次なる飛躍へ、挑戦の土壌づくり

代表取締役社長 今村 善信氏



大電産業

福井市春山1-6-15

社長就任2年目の65期も全事業部で目標を達成できた。「効果を意識してみんなでPDCAを回しながら、働き方改革など新しいルールに対応した仕組みを整えてきた」。それに加えて、事業継続計画（BCP）の策定にも着手。「組織に一体感が出てきて、会社全体として成長が実感できた1年だった」と振り返る。

しかし、今年前半については「不透明感が強く、この数年間で一番我慢しなければいけない時期」とし、その逆境を乗り越えていくためのキーワードを「飛躍のための改善」と掲げる。

今後、新技術の実用化などで事業を取り巻く環境が過渡期を迎えると予想。その変化に対し「今していることの精度をできるだけ高め、その上でチャレンジやイノベーションを生み出す土壌をつくり、種をまいていかなければならない」と訴える。特に、高速大容量の第5世代（5G）移动通信システムなど、通信分野で目覚ましい技術革新が見込まれるため、「電気と通信、制御と通信の連携による新技術や新製品を把握し、売れる段階になったら『お任せください』と言えるよう備えておかなければならない」と次の一手を思い描く。

一方で、既存事業では「多くの設備が更新の時期を迎える中、リニューアル市場にきちんと向き合っていく」と足元を固める。また、2023年の北陸新幹線の敦賀延伸に伴う再開発には「微力ながら福井の発展に携わらせていたたく」と大きな意義を感じている。

そして、「改善も含め全てのごとお客さまと社会に貢献し続けるために行うのだ」という意識でやっていきたい」と経営の根幹を確かめる。